



キンギョのしっぽに、白いふわふわしたものがついたのは、病気の

キンギョの白雲病

金魚すくいでもったキンギョや、川でとってきたメダカなどを、今まで飼っていたキンギョの水そうに入れたりすると、危険です。キンギョの体に、白いもやもやした雲のようなものがくっつきはじめ、それが次々とほかのキンギョにも伝染し、キンギョが全めつしてしまうことがあるからです。

白い雲のように見えるものの正体は、皮ふに小さい寄生虫がつき、寄生虫にやられた皮ふから、キンギョが出すねん液です。このねん液をえさにして、寄生虫はさらにふえていきます。えらに寄生虫がつくと、呼吸ができなくなり、キンギョは、すぐ死んでしまいます。治りょうしてやらないと、全身に広がっていき、キンギョは元気がなくなり、えさも食べなくなって、やがて死んでしまいます。

塩水で治りょうする

白雲病になったキンギョを、1パーセントの食塩水（1リットルの水に10グラムの食塩をとかず）を入れたボールなどに、30分間つけて、水そうにもどしてやります。これを、1週間ほど続けます。うっかり食塩水につけたままにすると、キンギョは苦しいので、30分間という時間を守ることが大切です。ホルマリン液でも治りょうできますが、ペットショップの人などに相談してからにしましょう。

水そうの水がよごれたままでも、白雲病になりますから、水をきれいにしてやりましょう。（監修・安部 義孝）

